瀬戸市窯垣の現状調査と保存活用に関する考察

愛知工業大学　学生員　○松田直樹
愛知工業大学　妹尾　亮
愛知工業大学　正会員　小池則満

1．はじめに

愛知県瀬戸市には、窯垣（かまかき）と呼ばれる古い窯道具を用いた塀や壁などが見られる。観光ルートとしての整備などに活用されているが、歴史的土木構造物としての研究や調査は少ない。[1)]

そこで本研究では、瀬戸市窯垣の現状について調査し、窯垣の今後の保存活用に関する考察を行う。

2．窯垣の歴史

窯垣が発生した時期は、地域住民へのヒアリングによれば、江戸後期～明治初期頃ではないかということである。これは、100年以上前の建築物の基礎に窯垣が用いられていることから言われている。登窯(のぼりがま)を用いて陶器を焼く際に用いられる窯道具で古くなったものを、廃物利用として積むようになったものが窯垣であるが、その後、燃料が石炭や薪から重油やガスに移行したため、登窯での作製も行われなくなったことから、徐々に窯垣は造られなくなったとされる。

3．窯垣の分類

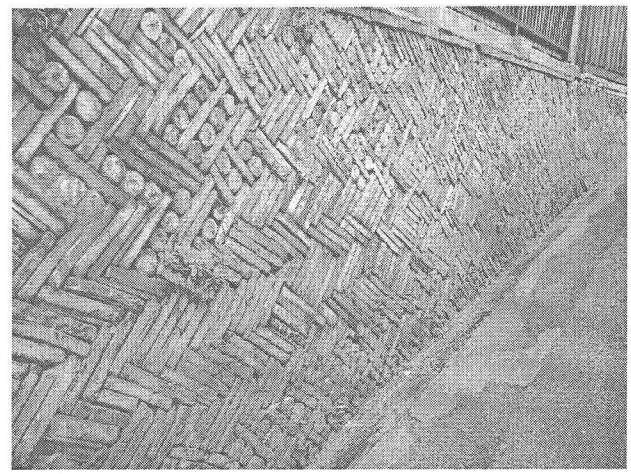
尾張瀬戸駅周辺には、『やきもの』に関わる地区名や神社などがある。例えば、窯神町といった町名や窯の火の神を祭った秋葉神社などである。こうした地区を調べ、瀬戸市内の４小学校区（古瀬戸小学校区，祖母懐小学校区，深川小学校区，道泉小学校区）を調査対象地域とした。

現地調査するにあたり窯垣の材料，窯垣の大きさ，安全性，美観性，窯垣の積み方の規則性の５項目について調査した。

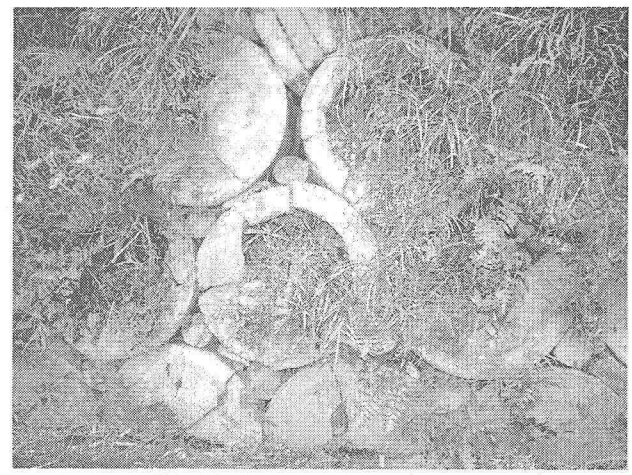
窯垣の材料は、タナイタ・エンゴロ・ツクのそれぞれ１種類のみのもの、これら３種類の中から２種類を組み合わせたもの、そしてこれら３種類すべてを用いたもの、その他にこれら以外のものの８組に分類した。

安全性，美観性については優・良・可・不可の４段階とした。安全性の基準は、優は補修の必要性無し、良は補修は要らないが優に比べ安全にやや難あり、可は補修が必要と思われるもの、不可は早急に補修を必要とするものとした。美観性の基準は、優はデザイン性が優れていて窯垣がはっきりと確認できるもの、良は窯垣がはっきりと確認できるもの、可はひび割れがありコケや草があるもの、不可はひび割れが目立ちコケや草が多く窯垣がわかりづらいものとした。

安全性及び美観性を優とした例を図－１に、美観性を不可とした例を図－２に示す。



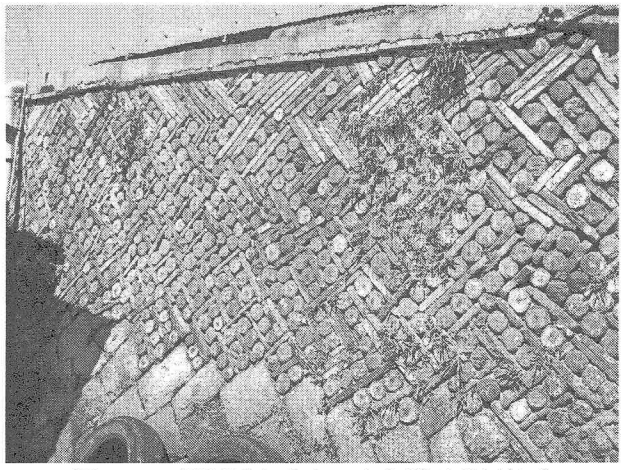
図－１　安全性・美観性を優とした例(深川校区)



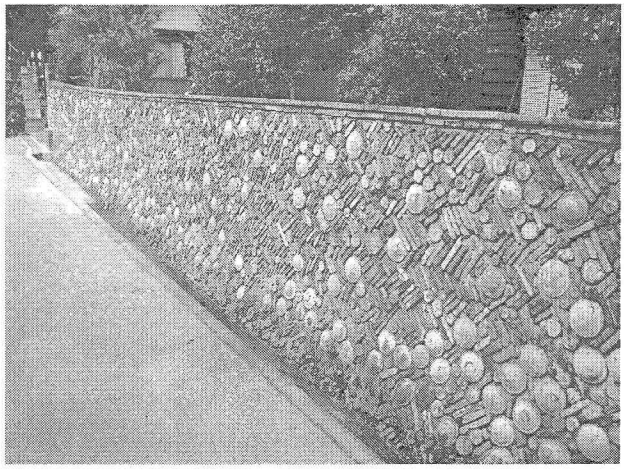
図－２　美観性を不可とした例(古瀬戸校区)

窯垣の積み方の規則性については、有・無・不明の３段階とした。有・無に関しては見て判断できるが、

不明はすでにモルタル補修などがされていて窯垣の積み方が見えないものとした。規則性を有とした例を図－３に示す。また、タナイタとエンゴロとツクの全てを組み合わせ、規則性を無とした例を図－４に示す。



図－３　規則性を有とした例(祖母懐校区)



図－４　タナイタとエンゴロとツクの全てを組み合わせ、規則性を無とした例(道泉校区)

４．分類結果

分類結果を右表－１～４にまとめた。

右表より項目別に比較してみると、材料については、ツクのみの窯垣はほとんど無いが、タナイタとツクの窯垣は多く存在した。安全性については、優・良の多くは窯垣の上に建築物があり、可・不可は山の斜面に多くあまり人の目に触れない所にあるため、状態が良くなかった。美観性については、人の目に触れ、比較的手入れがとどく所にある窯垣は、美観的に良かった。また人の目に触れず、手入れしにくい所にあるものは、草やコケが多く美観的に良くなかった。規則性については、古瀬戸校区と祖母懐校区は有が過半数を超え、

表－１　窯垣の材料別集計結果

単位：ヶ所

判定＼小学校区	古瀬戸	祖母懐	深川	道泉	合計
タナイタのみ	4	7	10	6	27
エンゴロのみ	13	3	8	1	25
ツクのみ	0	0	1	0	1
タナイタ、エンゴロ	14	1	13	3	31
タナイタ、ツク	8	16	17	40	81
ツク、エンゴロ	0	0	0	0	0
タナイタ、ツク、エンゴロ	10	5	22	11	48
その他	1	1	0	1	3
合計	50	33	71	62	216

表－２　窯垣の安全性についての集計結果

単位：ヶ所

判定＼小学校区	古瀬戸	祖母懐	深川	道泉	合計
優	21	31	44	37	133
良	22	2	20	24	68
可	4	0	6	1	11
不可	3	0	1	0	4
合計	50	33	71	62	216

表－３　窯垣の美観性についての集計結果

単位：ヶ所

判定＼小学校区	古瀬戸	祖母懐	深川	道泉	合計
優	10	14	23	10	57
良	8	9	20	29	66
可	20	9	18	19	66
不可	12	1	10	4	27
合計	50	33	71	62	216

表－４　窯垣の規則性についての集計結果

単位：ヶ所

判定＼小学校区	古瀬戸	祖母懐	深川	道泉	合計
有	33	22	26	22	103
無	17	6	43	40	106
識別不能	0	5	2	0	7
合計	50	33	71	62	216

深川校区と道泉校区は無が過半数を超えている。なお、材料別と規則性のクロス集計を行ったが、有為な違いを見い出すことは出来なかった。

小学校区別に比較してみると、山の斜面に窯垣が存在する古瀬戸校区と深川校区は安全性・美観性ともに、可・不可が多いことがわかる。

５．まとめと今後の課題

①美観性はそれぞれとらえ方が違うと思うので一般的な基準は定めにくいが、安全性は強度測定など基準を定め、数値化できれば良いと考えられる。

②すでに崩れてしまっていて建築物が上に無い所は危険であるため、撤去して再構築などを考えた方が良いと思われる。

【参考文献】

1）小池則満：「愛知県瀬戸市における窯垣に関する一考察」，平成１６年土木学会中部支部研究発表会講演概要集　pp.423-424（2003.3）